

第1号議案

平成15年度事業報告

概 要

平成15年度の支部活動は、「完全なる社会復帰のための環境づくりに向けた運動」や、また「脊髄治療体制の確立と充実のための運動」という神奈川県支部の一貫した大方針に則り、順調にすすめられました。

支部では、これらの方針を基に会員の皆様に対して情報提供や各種行事の開催等を通じて会員相互の親睦と相談支援などを行ないました。

先ず、第一に第2回全国総会横浜大会を連合会本部と共催したことが挙げられます。全国脊損連合会本部が平成12年にパシフィコ横浜で第27回全国総会「バリアフリーまつり」を開催して以来、3年ぶりに同じく横浜のかながわ県民センターで全国総会を開催しました。

全国総会を地元で開催するその意義はまことに大きく、開催することで会場周辺のバリアフリー化が進展することや関係機関、関係団体と関係する人々の車いす使用者に対する認識が深まり、使用するホテルや施設は、車いす使用者に対するバリアフリーの必要性がより鮮明に理解でき、意識がより高まるなどの大きな効果があります。

連合会本部は平成14年にそれまでの任意団体から厚生労働省の認可を受けて法人各を取得したことから社団法人全国脊髄損傷者連合会として2回目の全国総会横浜大会となりましたが、神奈川県支部では役員が中心になり全力を挙げた結果、全国大会を無事成功に導くことができました。

また、神奈川県共同募金の助成を受けて神奈川県内の旅客船と旅客船乗り場のバリアフリーの状況を調査する活動にも取り組み、県内の旅客船ターミナルや旅客船を実際に車いす使用者として乗り込むなど実地調査を行い、その調査結果を報告書としてまとめ各会員に配布しました。

事業計画にあります「健康管理セミナー」の開催では、多くの脊髄損傷者が最も難しいとされている、排泄障害に対するコントロールを解決する新しい手術「盲腸ポート」をテーマに、青梅市立総合病院の正木幸善医師を講師にお招きして「医療セミナー」を開催しました。講演では、脊髄損傷者を対象にした盲腸ポートの手術や十数例の成功例などの説明が行なわれましたが、参加した会員の方々から、QOLを高めるために行なう手術とはいうものの、果たして誰でもがうまくいくのかどうか分からない、など慎重な意見もありました。その他、支部主催の各種行事を実施し、それぞれ各会員にご案内しました。

1. 第2回全国総会横浜大会の本部との共催

社団法人全国脊髄損傷者連合会の第2回全国総会は、6月8日から10日までの3日間の日程で横浜のかながわ県民センター2階ホールで開催されました。

この全国大会には全国から31支部、144名が参加しましたが、大会では来賓として神奈川県や横浜市、神奈川県身体障害者連合会などの関係機関や団体が式典に出席したほか、榊屋敬悟衆議院議員ほか多くの関係者が出席しました。また、今大会の記念講演として、日本の脊髄再生研究の第一人者である慶応大学の岡野英之教授による「脊髄再生」についての講演が行なわれました。

また、懇親会会場は宿泊先の横浜ベイシェラトンホテルで行われ、福祉福祉機器の展示や、また支部会員の竹田英雄さんの弾き語りショーなどが披露されました。総会の内容については、脊損ニュース7月、8月号に掲載されています。

神奈川県支部では、本大会の開催に当たり、山崎支部長が総会の議長を務めたほか、大会会場とホテルやその周辺地域のバリアフリー状況を事前調査したのをはじめ、会場設営や参加者の送迎バスの手配と運行、そしてボランティアの確保と担当部署の配置など、支部役員全員が全力を挙げ、大会を成功に導くことができました。

2. 県内の旅客船及び旅客船ターミナルのバリアフリー調査点検活動

交通バリアフリー法が制定されてから4年が経過しましたが、車いす使用者にとって果たして公共交通機関がどれほど利用しやすくなったのでしょうか。電車などは駅舎のバリアフリー化が進んだことにより利用しやすくなったように思われますが、それでも、自宅から最寄りの駅へ行くためのバスについては、まだまだ現実的には利用することが難しい状態にあります。

しかし、陸上の交通機関については一定のバリアフリー化がすすんでいましたが、その反面、旅客船については、陸上交通機関のようなガイドラインやマニュアルが整備されておらず、旅客船事業者や造船事業に関係する人たちにバリアフリーに関する考え方が全く欠落していました。

旅客船ターミナル（船の乗り場）のバリアフリー化については、すでに施行されているハートビル法によって一定のバリアフリー化が義務付けられています。旅客船については、交通バリアフリー法が制定されたことから、平成14年5月15日以降に新造する一般旅客定期航路事業用の5トン以

上の船舶については、船舶の乗降やバリアフリー客席、車いすスペース、船内移動経路、船内旅客用施設（トイレ、食堂、売店、遊歩甲板）などのバリアフリー化が義務付けられました。

支部では、このような新しい法律に着目し、神奈川県共同募金会の助成を受けて、平成15年6月から9月にかけて神奈川県内の旅客船及び旅客船ターミナルのバリアフリー調査点検活動を行いました。

また、この調査点検活動は報告書としてまとめ、各会員に配布しました。

〔調査箇所〕

◎旅客船ターミナル 14箇所

川崎フェリーターミナル（株式会社マリンエクスプレス）／宮崎港フェリーターミナル／八景島客船ターミナル／山下公園（株式会社ポートサービス）／東京湾フェリーターミナル／横浜港大桟橋国際客船ターミナル／みなとみらいふかり桟橋／芦ノ湖遊覧船関所跡乗り場／元箱根乗り場／湖尻乗り場／箱根遊覧船箱根町乗り場／元箱根乗り場／熱海港乗り場／大島元町港乗り場
以上14箇所

◎旅客船 8隻

株式会社マリンエクスプレスのフェニックスエクスプレス／横浜港遊覧船マリンシャトル／マリンルージュ／伊豆箱根鉄道あしのこ丸／箱根遊覧船海賊船パーサー／箱根遊覧船外輪船フロンティア号／伊豆箱根鉄道第2こま／東海汽船高速船シーガル。
以上8隻

3. 「盲腸ポート手術」セミナーの開催

脊髄損傷の多くの方々が最も苦労している排泄障害をコントロールし、意のままに外出ができる「盲腸ポート手術」の有効性については、脊損ニュースで紹介されて以来全国的な話題となりました。また、既に手術を受けた人がその後快適な生活を送っているなどの報告もある中で、神奈川県支部では12月14日、スパウザ小田原において、実際にこの手術を行なっている青梅市立総合病院の正木幸善先生を講師として招き、医療セミナー「盲腸ポート手術」を開催しました。

このセミナーには、東京支部はじめ、遠くは熊本県からの参加者もあり、その関心の高さが窺えましたが総勢37名が参加しました。

セミナーの感想としては、「実際に話を聞いてよかった」や「選択肢が増えた」などと肯定的なものから「まだ実例が少ないので不安だ」や「まだ不安な面があるのではないか」また「もう少し様子を見たい」などの感想まで様々でしたが、いずれにしてもまだ新しい手術でもあることから、手

術を受けるか否かという判断は、慎重にすることが必要です。

4. 会報「やわらぎ」の発行

支部会報「やわらぎ」は、平成15年度の支部役員改選により、新しく選任された大井知子文化部長の担当で、第66号と第67号の2回発行しました。第66号では、脊髄損傷者にとって希望の持てる、今話題の脊髄再生医療の研究で知られている医学博士で慶応大学の岡野英之先生の講演が横浜で開催される第2回全国総会で行われるという案内を掲載したほか、神奈川トヨタの福祉・介護カーショップがオープンしたことなどの情報をお届けしました。また、第67号では、県央協会が主催した西伊豆一泊バス旅行の報告や、自動車税の限度額などをお知らせしました。

第66号.....2003年 4月 4日発行

第67号.....2003年10月10日発行

5. グラウンドゴルフ講習会の開催

「みんなでグラウンドゴルフを楽しもう」と11月21日に南足柄市運動公園において、支部グラウンドゴルフ講習会を実施しました。

講習会には、支部会員をはじめ千葉県支部の強豪選手など35名が参加して、朝9時から、2ラウンドの練習試合が行なわれました。

参加した人からは「再度練習試合をしたい」などの意見がありました。

6. 平成15年度支部総会の開催

平成15年度支部総会は6月14日(土)にスパウザ小田原の会議室において開催しました。出席者は、17名という少数となりましたが、出席者からは支部活動について活発な意見が交わされました。

総会の資格審査では、会則第10条2項による総会成立に必要な定足数は、委任状を含めて80名となりましたが集計の結果合計84名となり今総会は成立しました。

支部会員数.....4月1日現在159名

総会出席者.....17名

委任状提出者.....67名

合 計.....84名

総会は、議長に原沢茂夫さんを選任したあと議事に入り、平成14年度活動報告と総額331万1千161円にのぼる決算報告及びその監査報告が行なわれ、いずれも承認されました。また、平成15年度の事業計画とそれに伴う、総額261万8千577円の平成15年度予算の趣旨説明が行なわれ、全会一致で両議案は承認されました。次いで平成15年度支部役員改選が

行なわれ、支部長には引き続き山崎昇が選任されたほか文化部長に新しく大井知子さんが選出されました。詳しくは、「やわらぎ」第67号に掲載。

7. 支部忘年会の開催

恒例となった支部忘年会は、盲腸ポートのセミナー終了後の12月14日、同じくスパウザ小田原において34名が参加して行なわれました。

豪華賞品が当たるビンゴゲームやカラオケなど楽しいひと時を過ごし、心置きなく仲間同士で語り合いました。

8. 定例役員会の開催

平成15年度の支部役員会は第160回から第165回までの計6回開催して、支部活動を円滑に進めることができました。開催会場は主に相模原市の「けやき会館」を利用し、役員の出席率も良好に推移しました。

第160回…… 4月29日…… 相模原市 けやき会館

第161回…… 6月14日…… スパウザ小田原会議室

第162回…… 8月17日…… 相模原市 けやき会館

第163回……10月19日…… 相模原市 けやき会館

第164回……12月15日……スパウザ小田原会議室

第165回…… 2月15日……相模原市 けやき会館

9. 関東ブロック会議に出席

全国総会の開催時期が連合会本部の社団化に伴い、これまでの9月から5～6月に変更されたため、昨年度の関東ブロック会議の開催時期もこれに伴い変更され、平成15年4月に長野県大会が開催され、また平成16年2月には東京大会が開催されました。このことにより次年度からの関東ブロック会議は毎年2月頃の開催になる予定です。

1、第25回関東ブロック会議長野県大会はメルパルク長野で平成15年4月14日に開催され、支部から山崎支部長はじめ3名が出席しました。

2、関東ブロック親睦会は、平成15年10月16日に東京都障害者スポーツセンターで開催され、支部から山崎支部長はじめ4名が出席しました。

3、第26回関東ブロック会議東京大会は、東京都障害者スポーツセンターで平成16年2月21日に開催され、支部から山崎、赤城の2名が出席しました。

10. 協会活動

県央協会は、9月14日と15日の2日間の日程で西伊豆バス旅行を実施しました。神奈川県福祉バス「ともしび号」での一泊旅行に会員やそのご家族など26名が参加しました。当日は、絶好の行楽日和に恵まれ、こころく

まで楽しみ、思い出に残る旅行となりました。

11、JAFとニッシン自動車の

無料点検サービスの実施

JAFとニッシン自動車工業が協働して毎年実施している、障害者用自動車の無料点検サービスは、10月18日、神奈川リハセンターの駐車場で行なわれました。支部から18台が参加したほか厚木市周辺から42台が参加し、点検サービスを受けました。

12、その他の活動

- ① 昨年度の共同募金活動は、10月1日に横浜西口駅前で4名が参加。10月3日に本厚木駅前で6名、10月8日には相模原市役所前で2名がそれぞれ募金活動に参加しました。
- ② 9月2日に旅客船及び旅客船ターミナルのバリアフリー調査報告書作成のための編集会議を厚木福祉会館で開催し、山崎、路川、荻野、町田小島の5名が出席しました。
- ③ 神奈川県は、県の政策に障害者が参画する機会を拡大するために各種審議会の委員として障害当事者を登用することになり、支部では「委員登用人材リスト」に山崎支部長を推薦し、調査票を提出しました。
- ④ 会報「やわらぎ」の内容などについて会員アンケート調査を行なった結果、各会員のご協力により12月までに46名から回答が寄せられました。今後、これを取りまとめ、やわらぎの編集に役立てることにしました。
- ⑤ 12月23日に埼玉県支部が主催する「車いすスポーツを通じていつも心に太陽を」と題するイベントが春日部市のウィングハットで開催され、支部から山崎支部長ら8名が参加しました。
- ⑥ 3月25日に伊勢原市のフォーラム246において「石堂哲朗先生の定年退職パーティー」を開催しました。このパーティーには、これまでお世話になった方々など45名が参加し、石堂先生に対するお礼とこれからの前途を祝福しました。
- ⑦ その他、神奈川県社会参加促進センター会議、社会福祉協議会第二種会員総会、県身体障害者団体連合会の勉強会等に出席しました。

【新しい川崎協会長に名和久男氏が就任しました】

神奈川県支部が創立して以来26年間に亘り、荻野昭二が川崎協会長を務められてきたが、この度川崎協会は名和久男氏を新協会長に選任しました。